



富士市の名工

「若い者には負けられん」

鍛冶職^{つづ}けて70年の小糸さん

「富士市の名工。にふさわしい農具に使うカマやクワ、ナタづくり一筋…。鍛冶職^{つづ}けて70年という市内永田1-23に住む小糸雄三さんはこのほど「技能功労」で渡辺市長から表彰を受けました。

この技能功労者は、同一職種に30年以上つとめ、技能の練磨や後進の育成に寄与し、功績のあった人たち

をたたえるもので、ことしで3年目34職種43人がめでたく受賞しています。小糸さんは、この中で最高令者の83歳です。どうみても70歳代ぐらいにしかみられません。いまでも毎朝1回は、持ち馴れた大きいゲンノウを手にしなから「まだ、まだ若い者には負けてはいられません。…と子弟の指導に当たっています。

また、小糸さんの先祖は、山本の姓で昔は小田原藩に仕えた鉄砲鍛冶だったという。その後、市内三日市の浅間神社で宮司をつとめたとき山本から小糸に姓が変わり、鍛冶職を始めてから、いまの長男の伝吉さん(50歳)の代で4代目の約200年の古い伝統を誇っています。このほか、戦時中は、10本ぐらいの日本刀をつくり、賞金100円をもらったこともあり、いまでは昔なつかしい思い出の一つですよ……と小糸さんは話してくれました。【写真・きょうも大ツチを振う83歳の小糸さん】

市の家計簿

ここにお知らせするのは、昭和53年4月1日から昭和53年9月30日までの、市の財政状況と、昭和52年度の決算見込みです。皆さんが納めた税金や、国、県の支出金（歳

入）が、どのように使われているか（歳出）を、わかりやすく書いてみました。

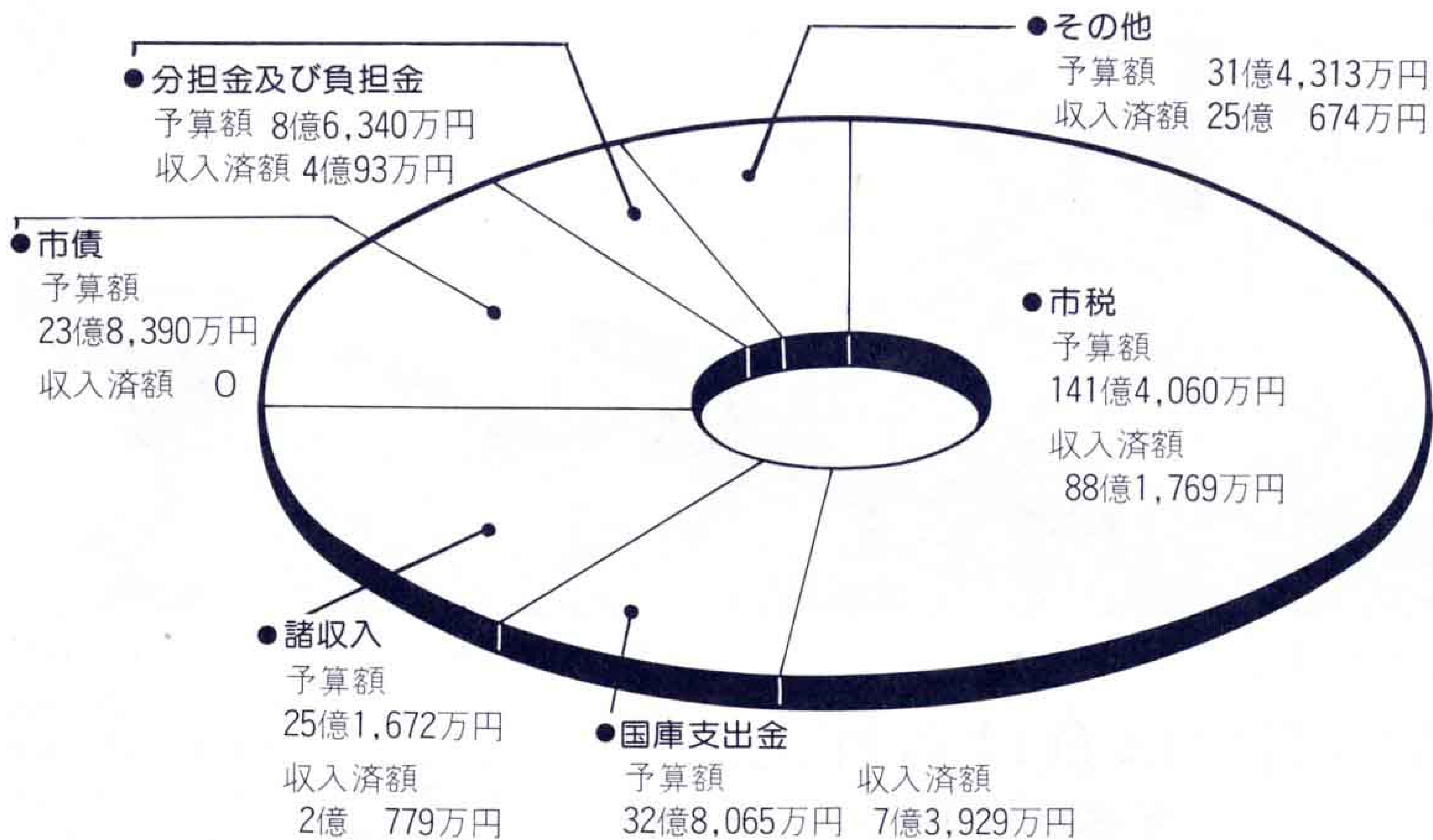
お宅の家計簿と同じように、市の財政も、ぜひ知っておいてください。

昭和53年度の収入と支出

(昭和53年9月30日現在)

一般会計の収入状況

予算総額	収入済額
263億2,840万円	126億7,244万円
	収入割合 48.1%



市民の市税負担額

(昭和52年度市税決算)
(見込み額に対する)



● 1人あたり 66,958円

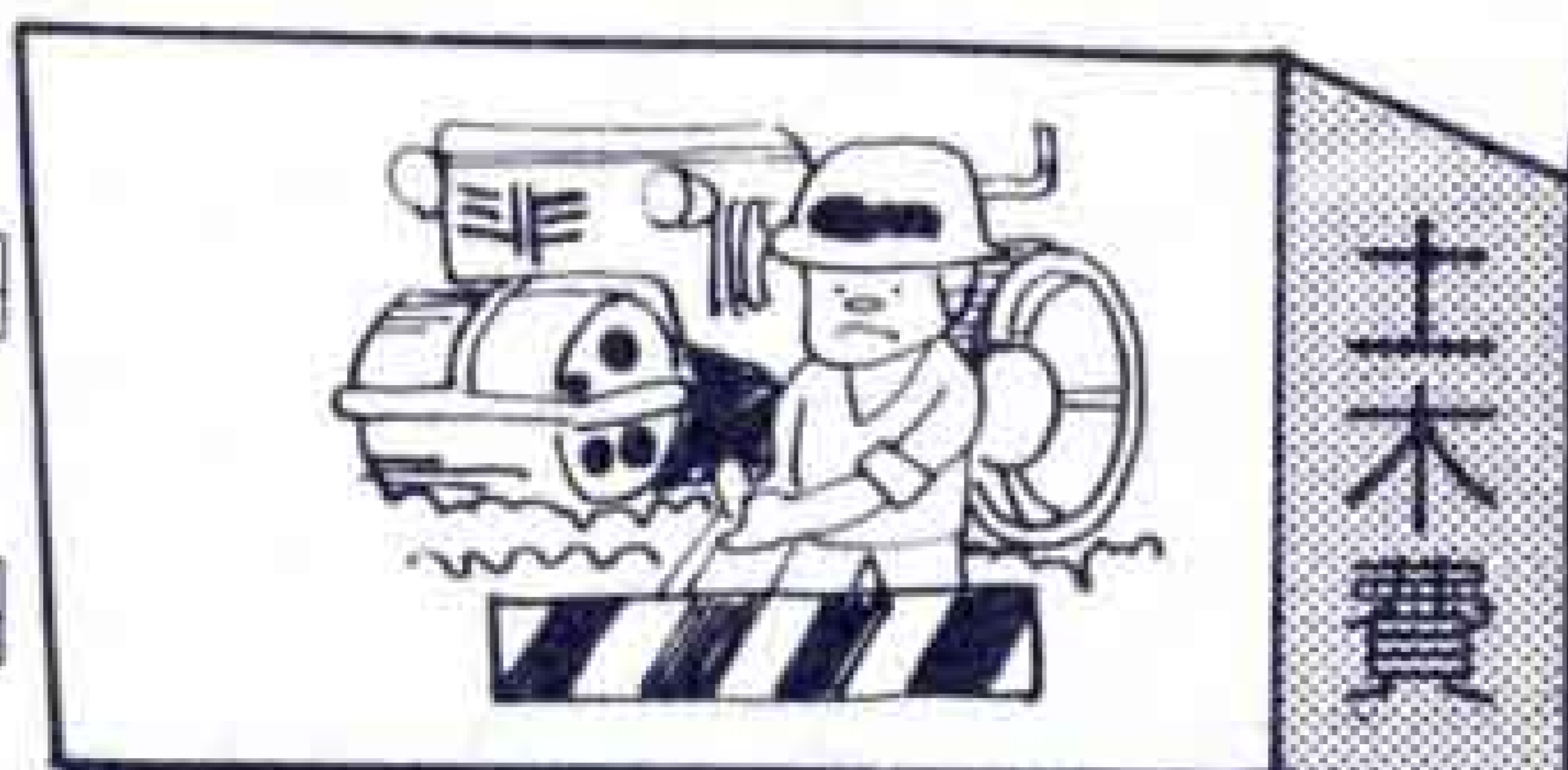


● 1世帯あたり 241,286円

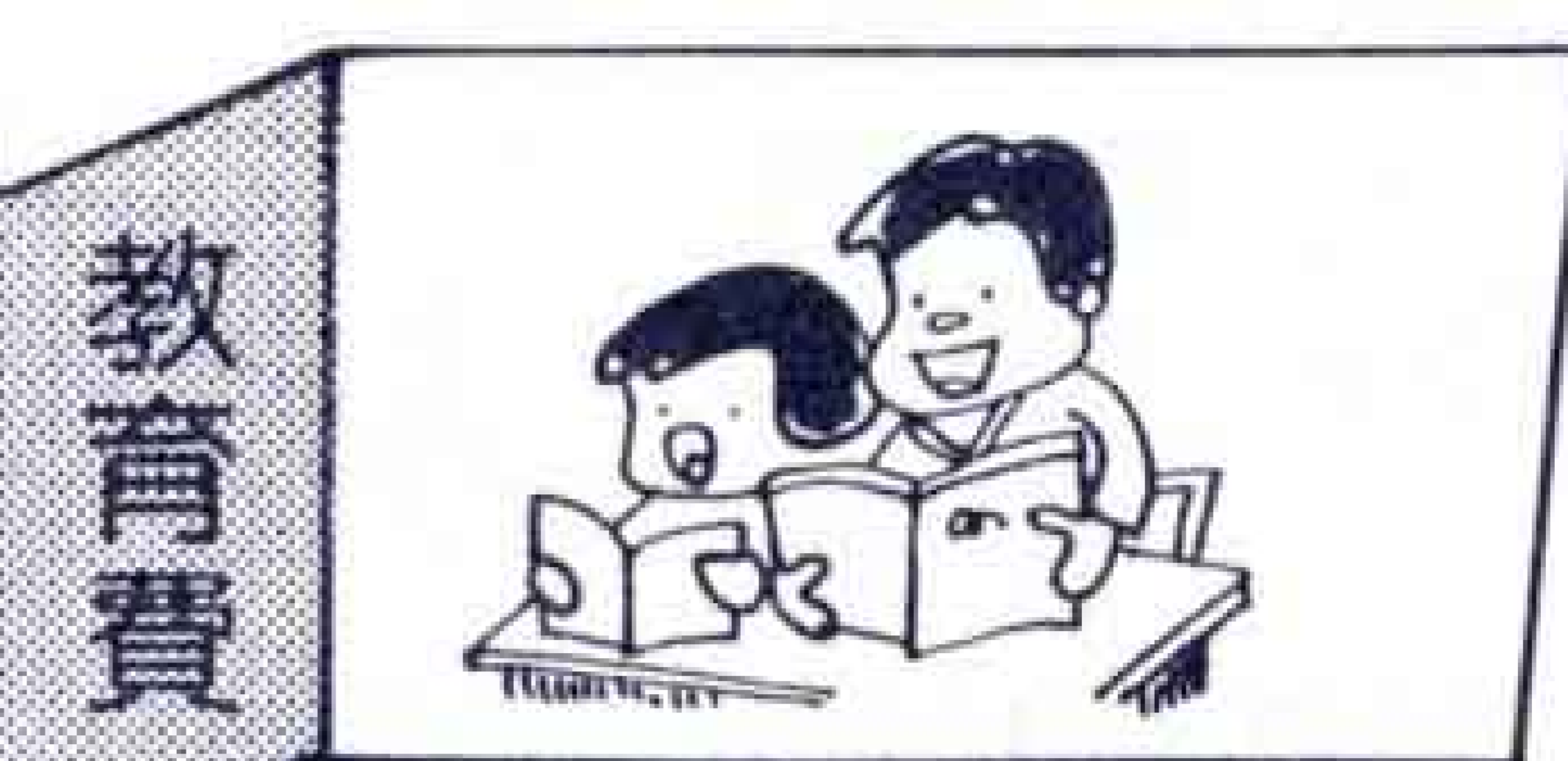
(法人、個人を含む)

一般会計予算の使いみち

予算額
66億5,320万円
支出済額
23億 41万円



土木費



教育費

予算額
54億5,375万円
支出済額
21億5,116万円

予算額
38億3,760万円
支出済額
17億1,334万円



民生費



衛生費

予算額
25億9,739万円
支出済額
10億7,255万円

予算額
25億2,486万円
支出済額
12億5,973万円



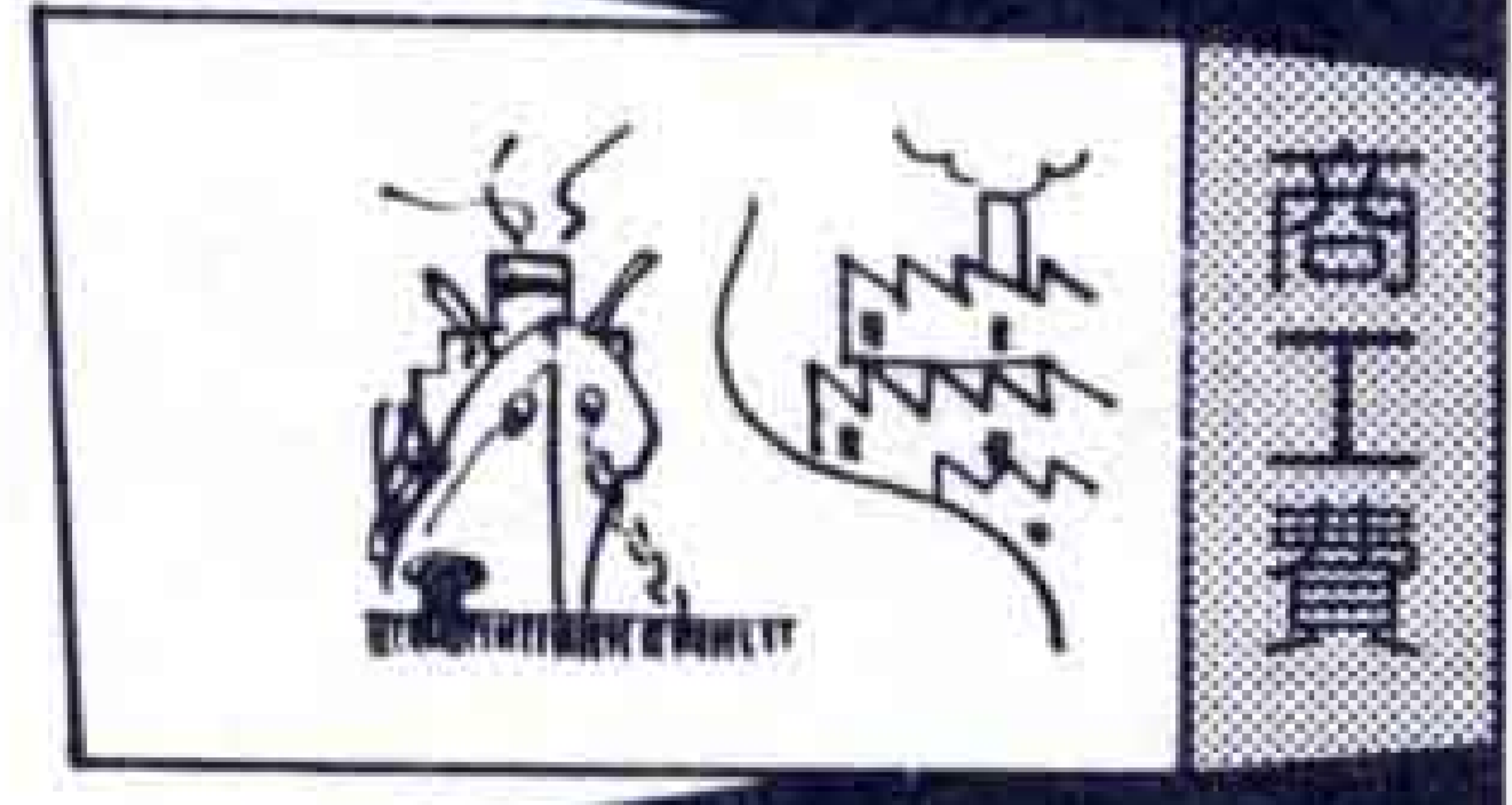
総務費



公債費

予算額
15億9,473万円
支出済額
6億6,163万円

予算額
12億6,384万円
支出済額
9億3,425万円



商工費



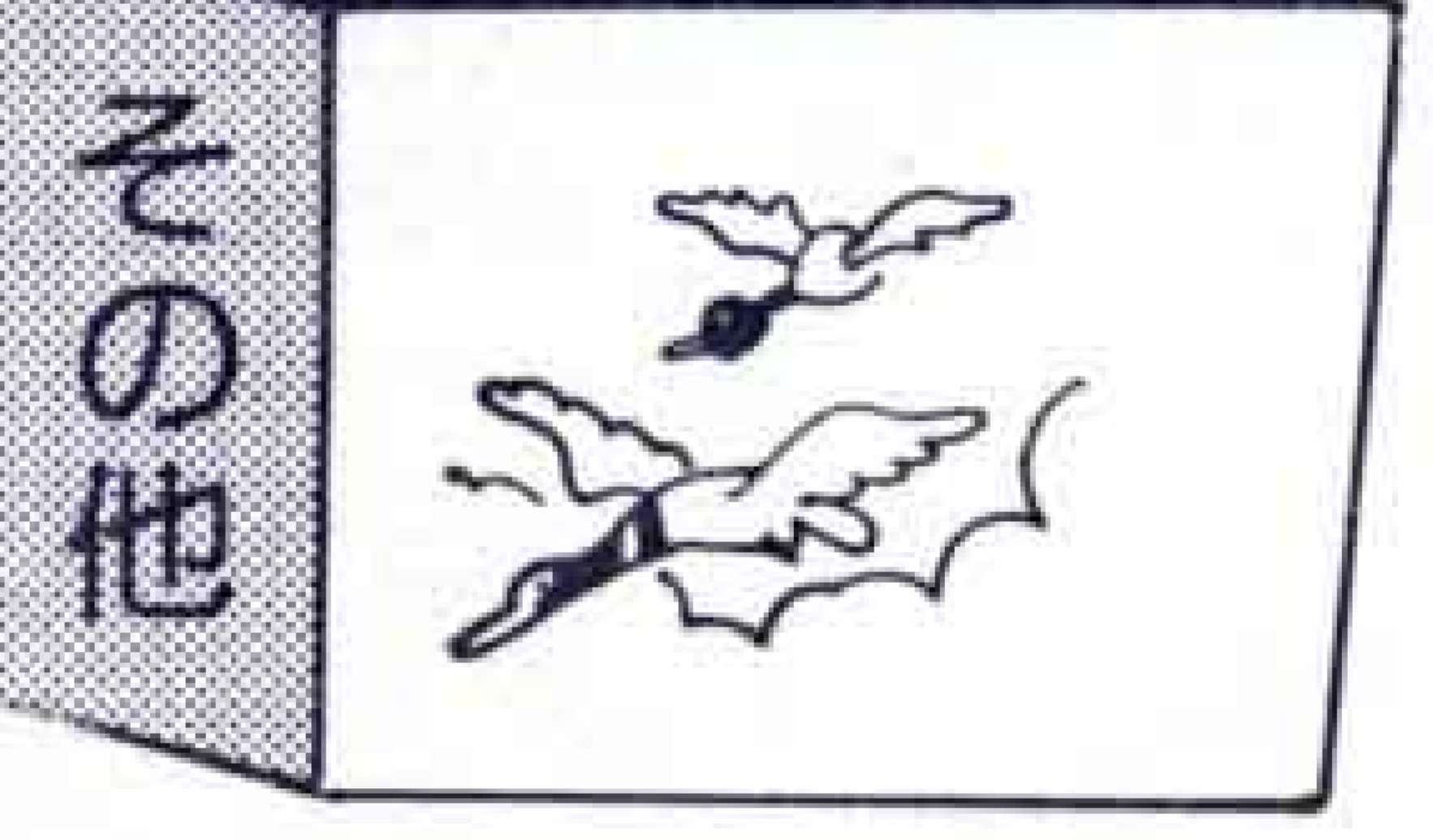
消防費

予算額
11億3,369万円
支出済額
3億9,054万円

予算額
7億8,867万円
支出済額
3億 912万円



農水産林業費



その他

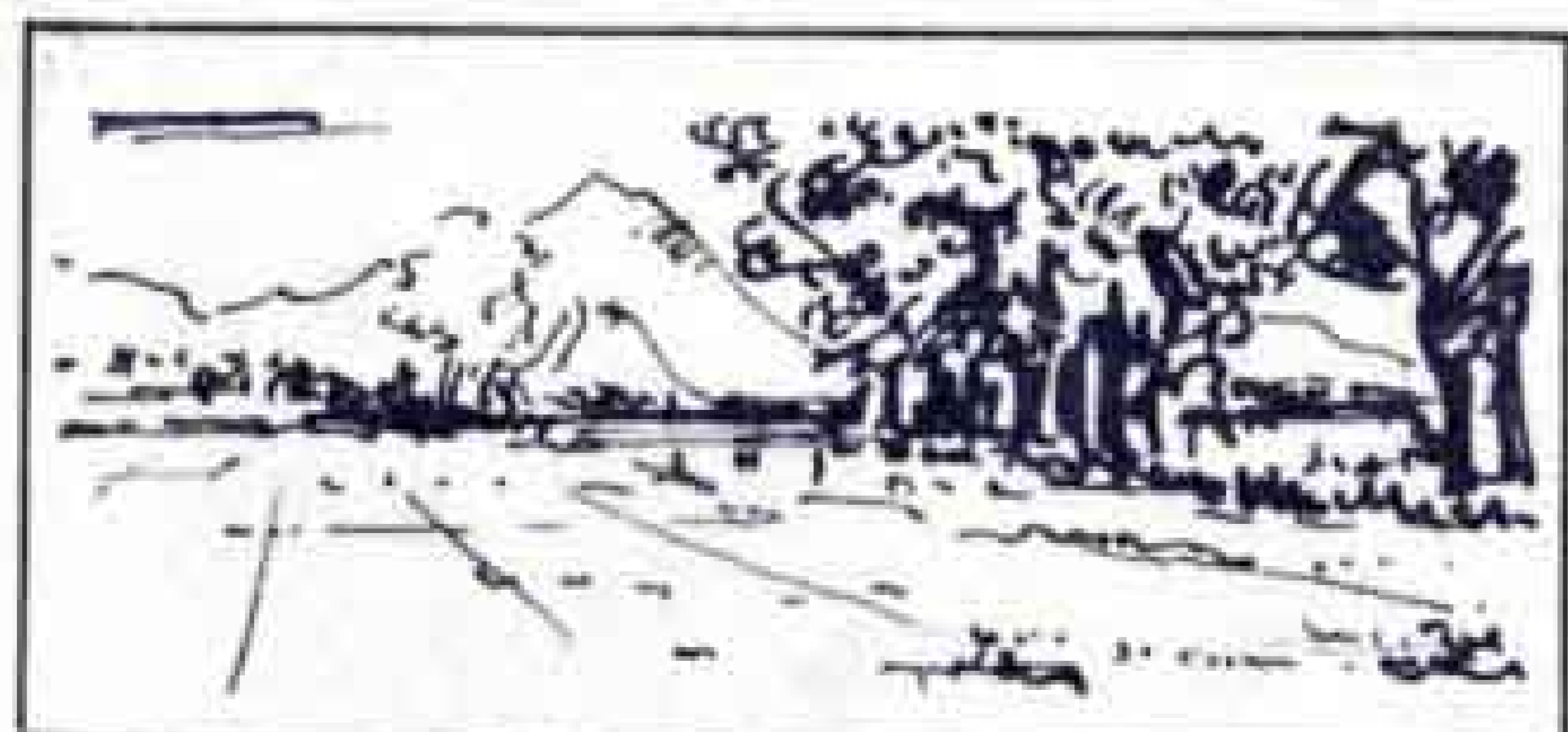
予算額
4億8,067万円
支出済額
1億7,117万円

総額 263億2,840万円 支出済額 109億6,390万円 支出割合 41.6%

市有財産



● 有価証券 2,410万円



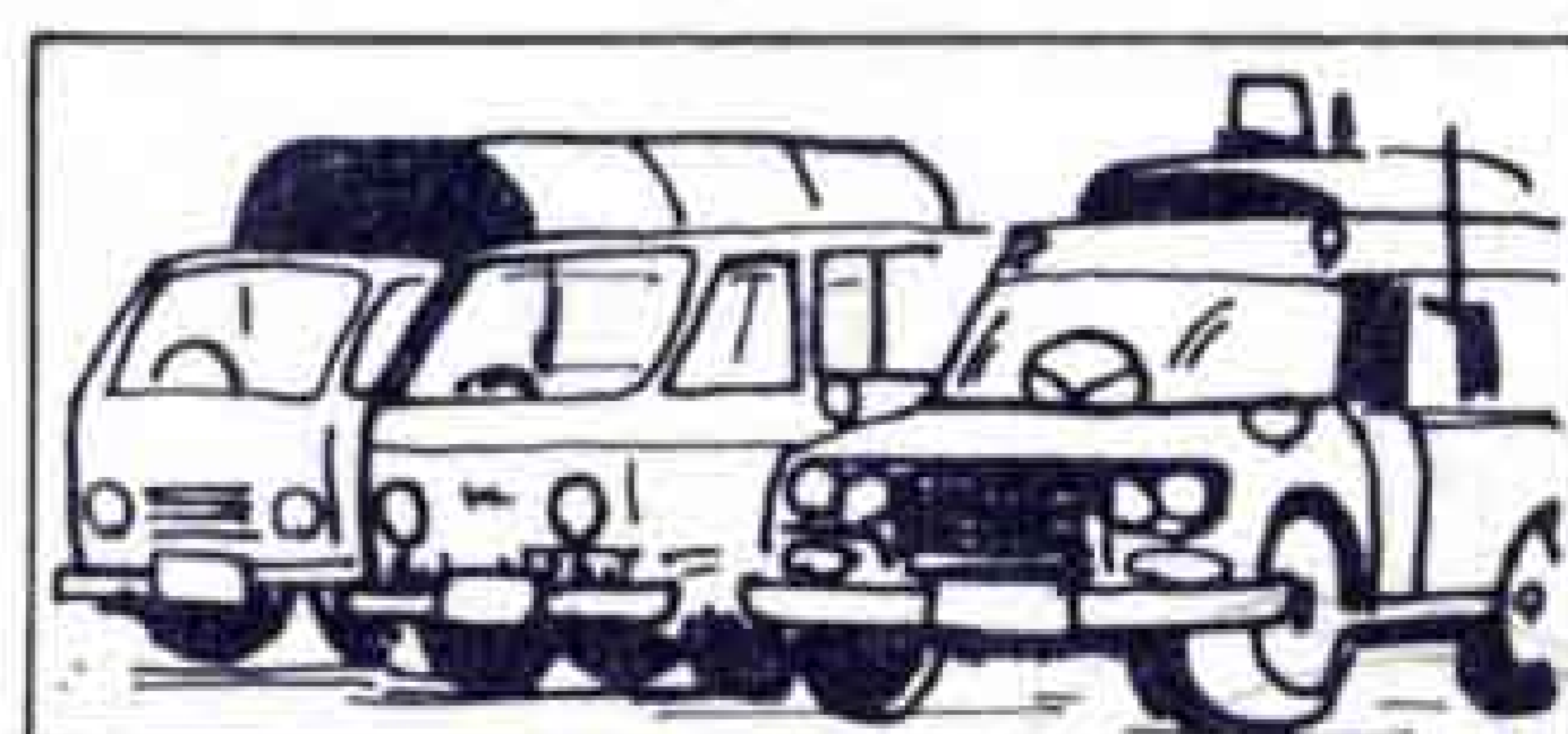
● 土地
696万3,051平方メートル



● 建物
4,339.78平方メートル



● 立木
151,834平方メートル



● 車両 201台

昭和52年度公営企業・特別会計の決算状況

水道事業

収入合計	11億4,279万円
営業収益	9億6,379万円
営業外収益	1億7,776万円
特別利益	124万円
支出合計	11億2,001万円
営業費用	8億8,352万円



営業外費用 2億3,649万円
純利益 2.278万円
 但し、一般会計よりの補助金9,000万円が営業外収益の内に含まれている。
総配水量 2,983万立方メートル
1日平均 8万1,733立方メートル
1日1人平均 475リットル
 (昭和52、4、1~53、3、31)

市立病院

収入合計	24億6,909万円
医業収益	21億4,603万円
医業外収益	3億2,030万円
特別利益	276万円
支出合計	24億4,106万円
医業費用	23億8,463万円



医業外費用 5,643万円
純利益 2,803万円
 但し、一般会計よりの補助金1億8,500万円が営業外収益の内に含まれている。
入院患者 8万8,023人
外来患者 17万6,928人
外来1日平均 596人
 (昭和52、4、1~53、3、31)

特別会計

(財産管理等特別会計は省略しました)

一般会計

収入額	261億8,199万円
支出額	242億4,057万円

◎水道、病院事業は決算額、一般、特別会計は決算見込み額です。

国保会計



収入額	30億3,184万円
支出額	27億2,938万円

依田原新田区画 整理会計



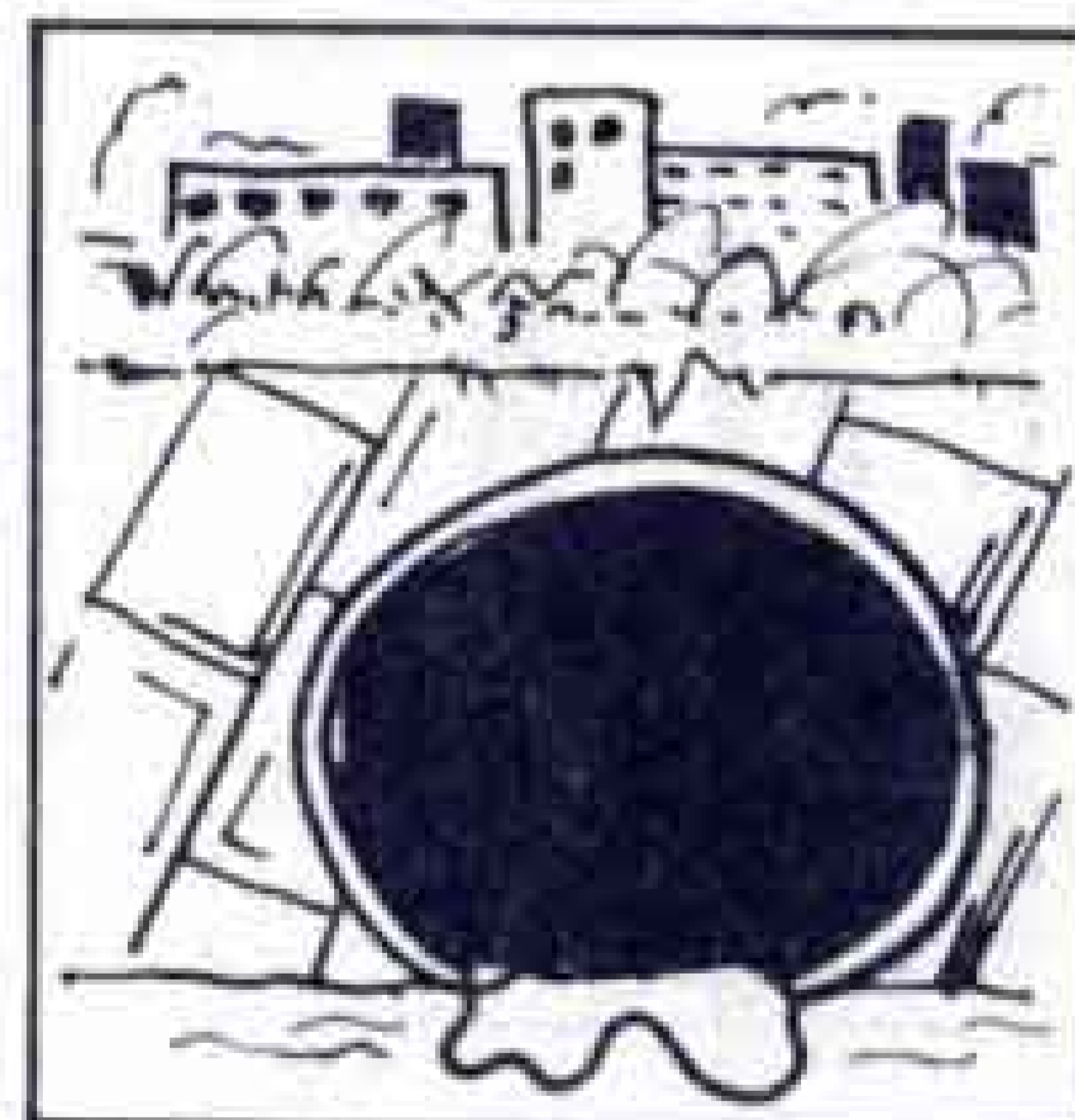
収入額	10億2,789万円
支出額	10億1,769万円

地方卸売市場会計



収入額	5億7,220万円
支出額	5億7,205万円

下水道会計



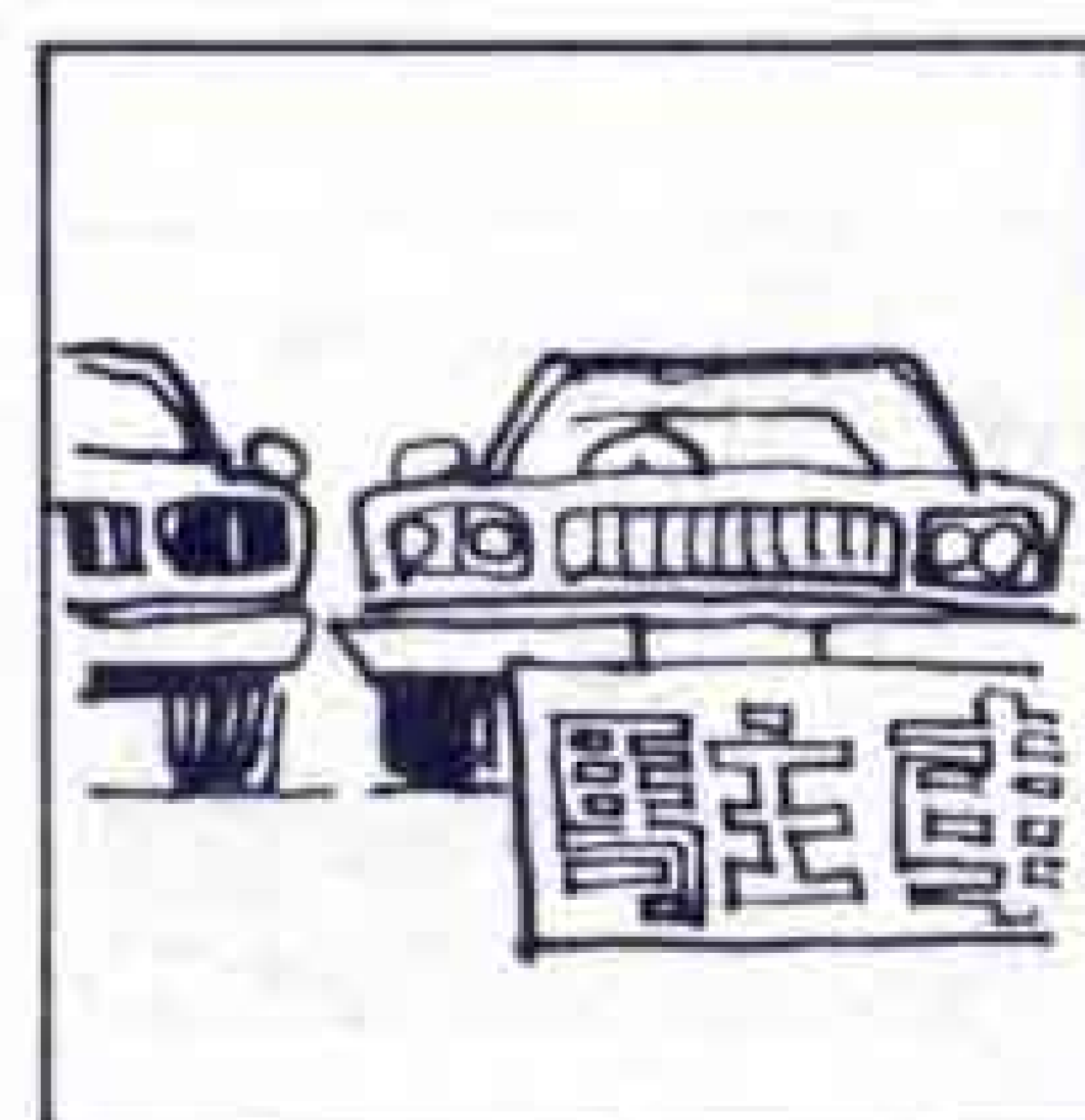
収入額	21億5,453万円
支出額	21億1,301万円

富士中部区画 整理会計



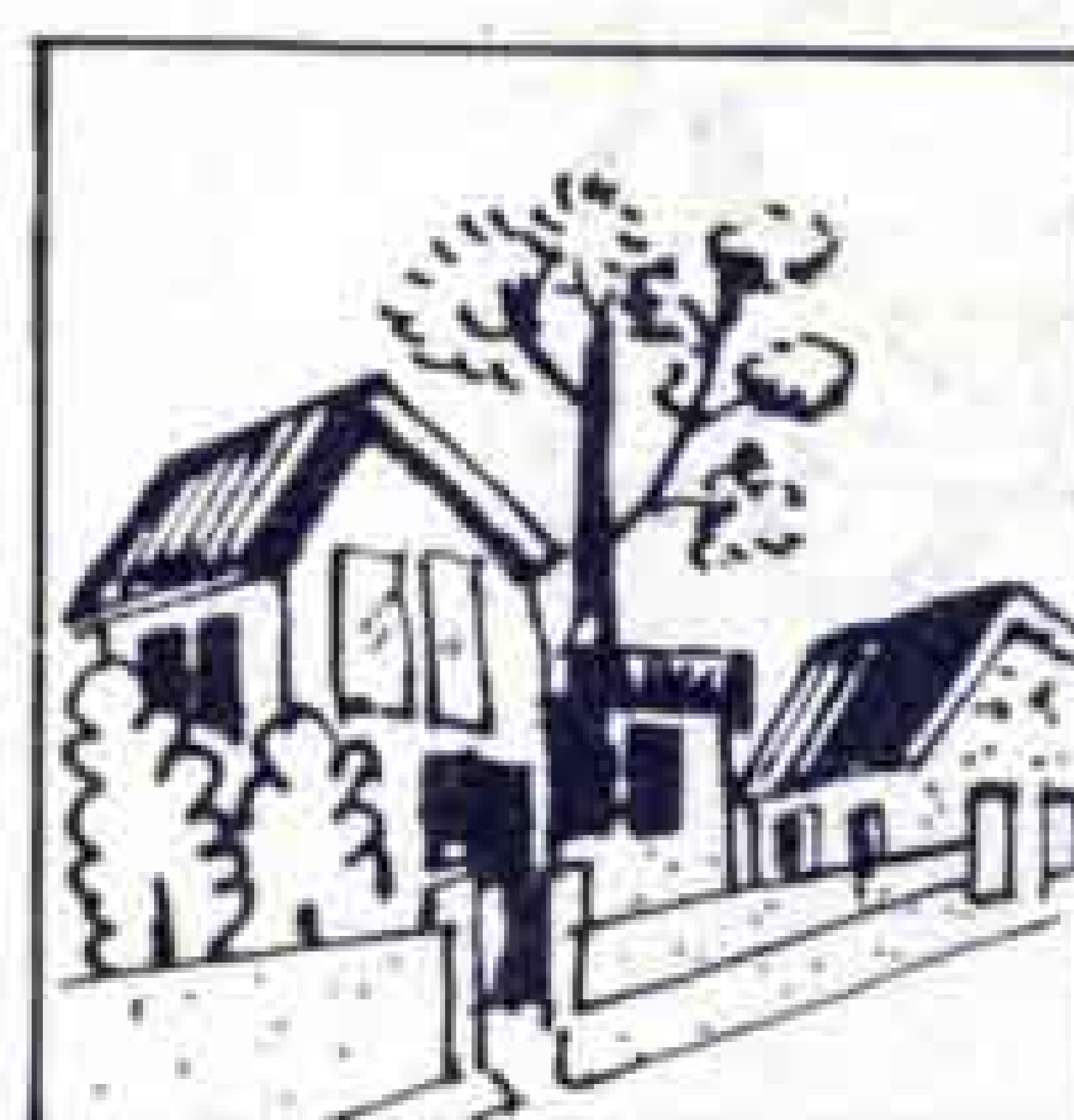
収入額	2,627万円
支出額	2,612万円

駐車場会計



収入額	7,880万円
支出額	7,696万円

青島・津田区画 整理清算金会計



収入額	496万円
支出額	245万円

学校給食会計



収入額	8,953万円
支出額	8,747万円

公共用地先行取得会計



収入額	4億2,102万円
支出額	4億2,102万円

市債の状況

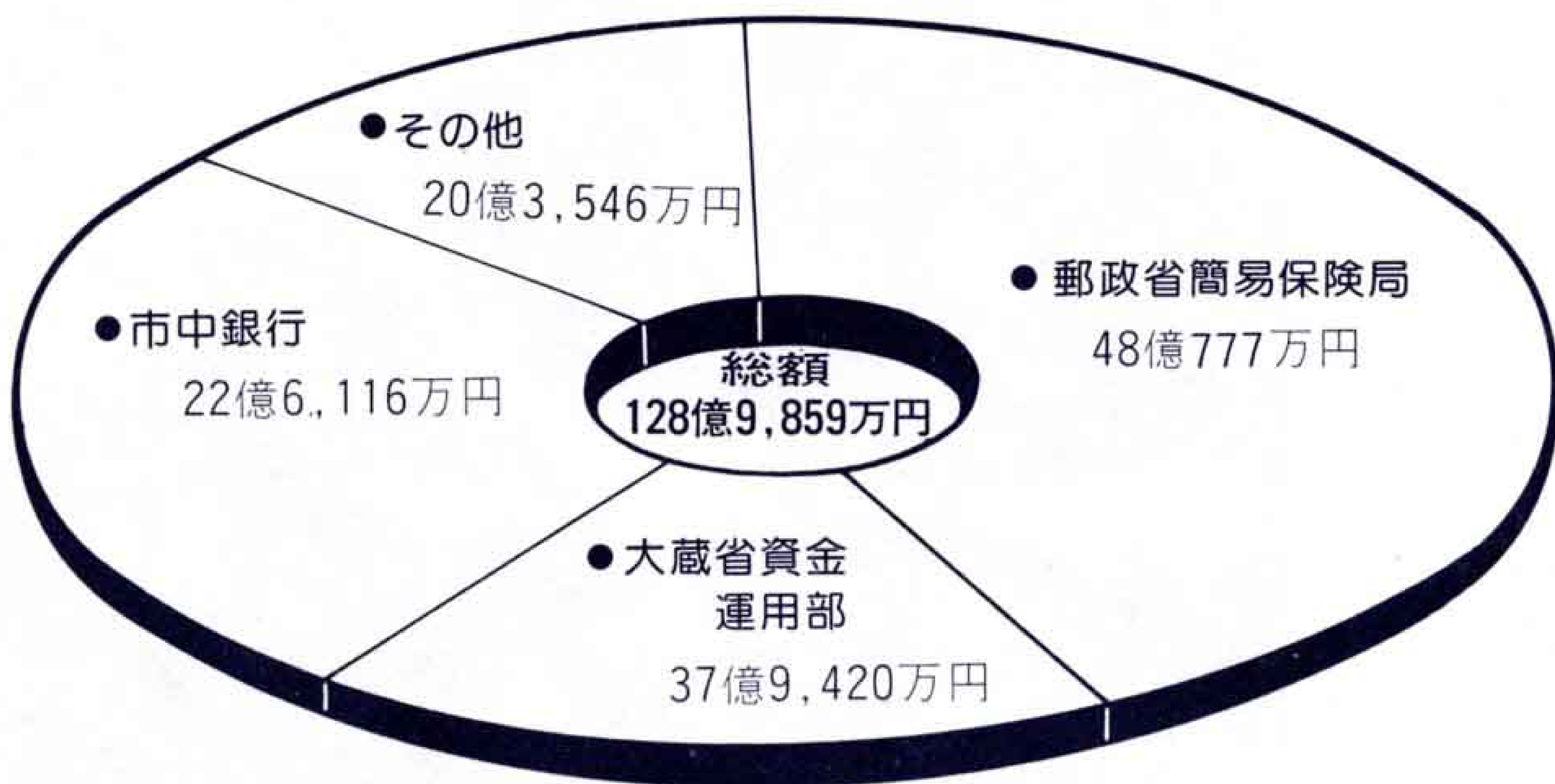
(昭和53年9月30日現在)

市債とは これは、主に市が行う建設事業の財源確保に、県知事の許可を得て簡易保険、国民年金積立金などの政府資金や、市中銀行などの縁故資金を、長期にわたって借りる借入金のことを言います。

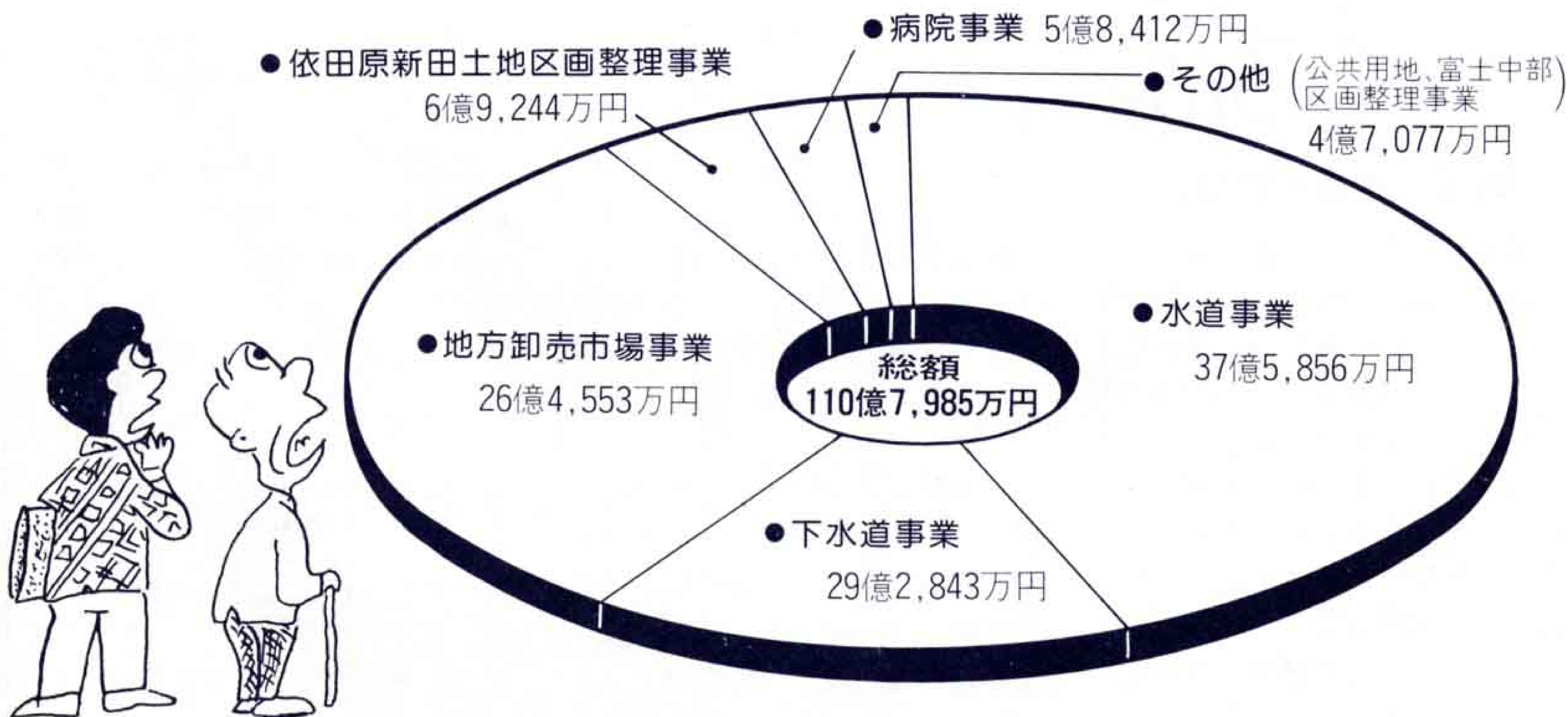
とは言えませんが、例えば、学校、道路、上下水道などのように、その利用が建設当時の市民だけでないような事業については、その建設費を借入金で賄い、その返済を次の世代の市民にも負担してもらうほうが、むしろ妥当性があるという見方もできます。

市債は、健全財政の建て前からは望ましい

一般会計借入先別



公営企業・特別会計



製紙スラッジ(P.S)共同焼却炉建設

富士製紙協同組合と公害防止協定

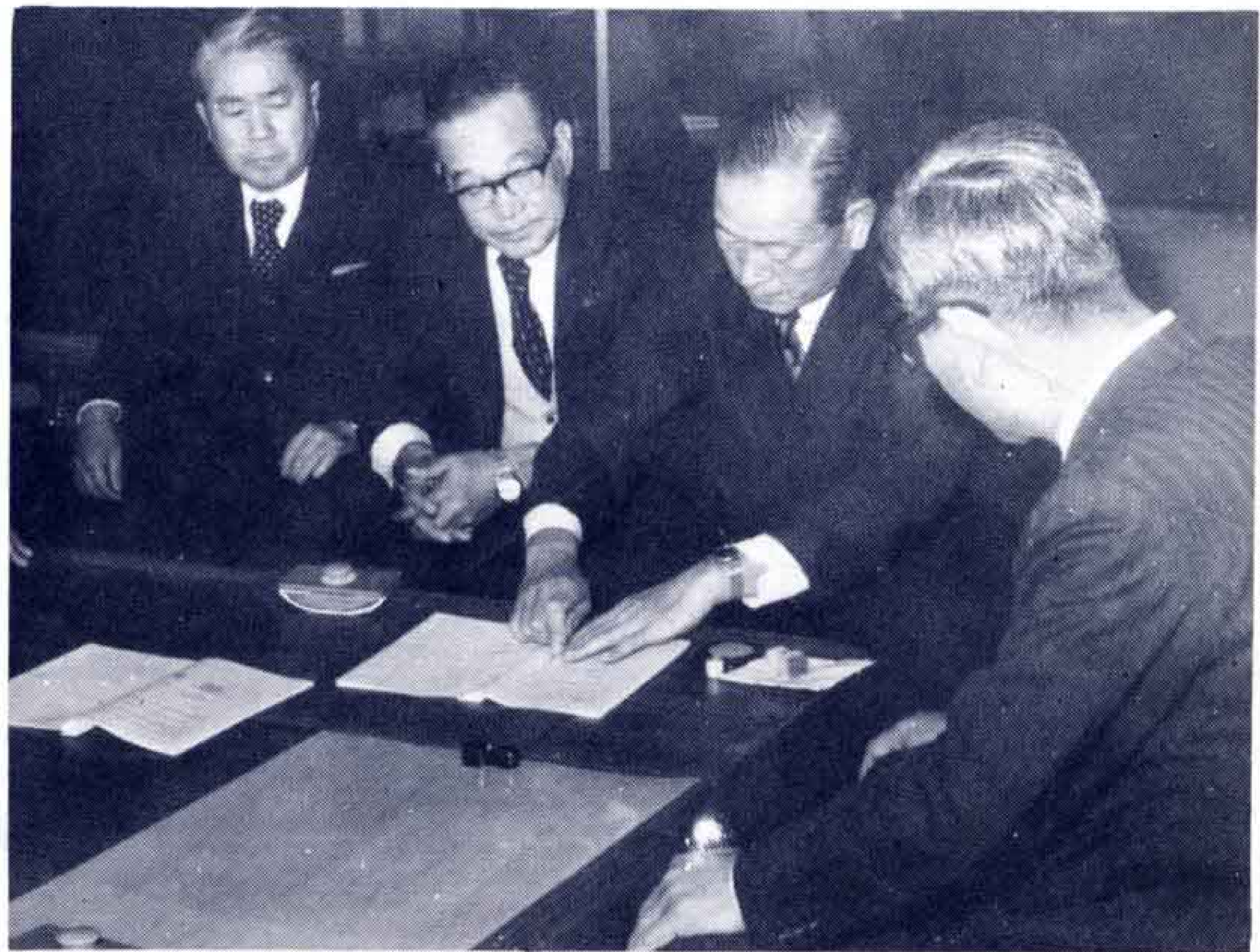
製紙スラッジ問題については、昭和47年9月1日から、昭和49年8月31日までの2ヵ年間に、大手企業は、単独で、中小企業は、共同で、P.S焼却炉を建設するという事で、市は業界の合意のもとに指導要領を制定し、行政指導をしてきました。その間、大手企業の単独焼却炉、一部中小企業の単独、共同焼却炉が建設されました。最後まで残った、中小企業43社で構成されている富士製紙協同組合の、製紙スラッジの処理について早期建設を基本方針として永い年月業界と共に市は、その実現に懸命の努力を重ねてきましたが、ようやく市内桑崎地先に建設することに、地元の合意が得られました。更に、運搬車の通過地域の住民と今後、話し合いをつづけることを前提に、協同組合は、11月28日、待ちに待った地鎮祭を行うことにこぎつけました。これにより工事は向う1年半もしくは

は2年先には完成することになります。

そこで市では、工事に先がけて同日、共同焼却炉建設により、地域住民の健康を護ると共に、生活環境の

保全をはかるため、組合の代表者と公害防止協定を市役所で結びました。

【写真・調印する山崎富士製紙協同組合理事長と市長】



市民の市税負担について

【こえ】 静岡県下各都市の中でも富士市は、市民一人当たりの税金の負担割合が一番高いと聞いたり見たりしております。また隣組等の寄り合いでも富士市は、他都市に比べ高い基準で税金をかけているように言う人もおります。そんなことはないと思いますが、本当はどうか説明して下さい。

(蓼原・Kさん)

【こたえ】 富士市民一人当たりの税負担は、県下で一番高く市民は他の市民よりも高い負担を強いられているとの声を時に耳にすることがありますが、これは大変な誤解です。たしかに単純に算出されたこの数字は、県下最高ですが、これはその市の個人、法人を含めた税を負担する力の強弱を、人口規模によって表す一つのバロメーターにすぎません。実際に市民個人が、負担する税額ではありません。

県下最高となっている理由は、事業所(法人)が多く、その負担する税、例えば法人市民税、固定資産税、電気税等の全体の市税の中に占める割合が、他の市よりも

非常に高いためです。税率等も他市と同様、税法に決められた通常のものを採用しておりますから、例えば同じ所得等であればこの市へ行っても市民税は同じ額となります。

以上のことを個人が負担する代表的な市民税を例にとって具体的に他市と比較しますと次のような実態です。

	当初予算 (52年度) 市民1人 当り市税	納税義務者 (52年度) 1人当り 市民税
富士	59,718円	43,269円
静岡	48,040円	49,158円
浜松	44,980円	44,467円
沼津	41,222円	46,322円
清水	46,067円	45,247円

(市・市民税課)



このコーナーでは「トピックス」と題して、地域の明るい話題、できごとなどを掲載しています。みなさんのまわりで楽しい催し物や行事、話題がありましたら、どしどし市広報広聴課（電話51-0123 内線528）までご連絡ください。

市長ら1日食品監視員

消費者の皆さんに、食料品の製造工場やスーパーの食品売場などを見てもらい、清潔度や食品管理について意見を聞こうと、富士保健所は、11月21日、「1日食品衛生監視」を行いました。

1日監視員には、市長、保健所長や消費者運動連絡会の役員など13名が3班に別れ、市内9ヵ所の工場、売店を熱心に監視しました。

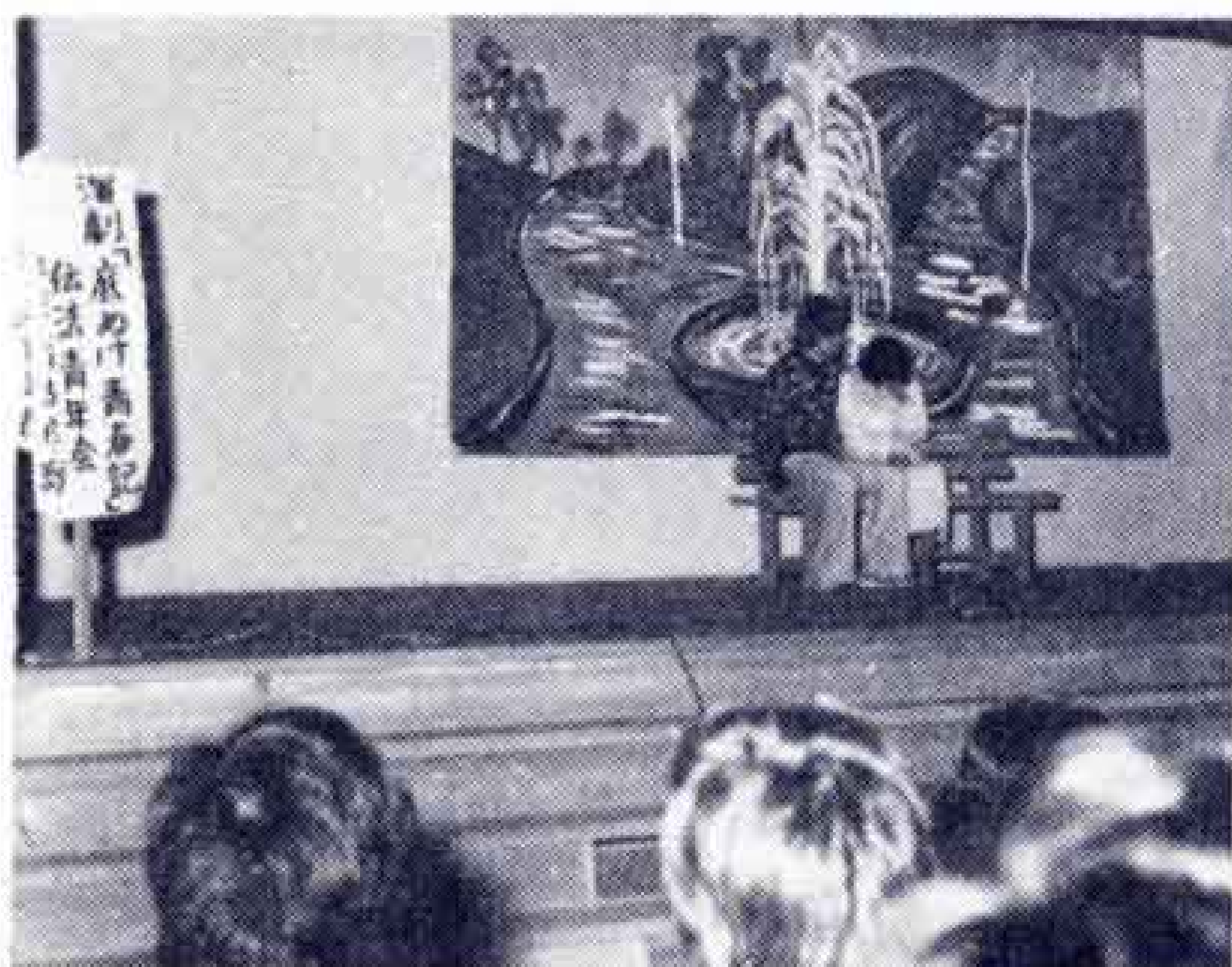
【写真・とうふにもきびしい目を】

市青年祭と婦人祭おわる

「未来を築く若人の祭典、第12回市青年祭および「明日の暮らしに生かそう…」と第10回市婦人祭が11月25、26日の2日間、盛大に開かれました。

青年祭は、農協会館ホールを舞台に自作自演による「真説不動尊の白蛇」や「底ぬけ青春記」などの寸劇をはじめ、フォークソング、踊りなどが夕方5時すぎまで熱演しました。

一方、市婦人祭は、市民会館を会



【写真・熱心に芝居を演じる青年祭と賑う婦人祭の一コマ】

「モチつき大会」

富士1小の5年生

お正月までには、まだひと月も早い「モチつき大会」が11月17日市立富士第1小学校で行なわれました。

これは、同校の5年生全員（320人）が、社会科の実習として市内五味島の水田約6アールを借り、田植から田の草取り、稲刈りまで自分たちの手で大切に育て、新米5俵半を収穫しました。早速全校生徒が、給食時間に新米で会食、つづいてこのモチつき大会になったものです。

生徒のほとんどが生まれて初めてキネを持ち、モチをつくところかウスのまわりをつく生徒が続出、ヤット先生の応援でモチができあがり、



場に「趣味の広場」「くらしの部屋」や「おふくろの市」、「味のれん」のおそば屋、おしるこ屋などの特設コーナーがずらりとならび、どこも親子づれで超満員の盛況ぶりを見せていました。



キナコモチやオカカのついたモチを腹いっぱい食べ、自分たちが育て収穫したモチだけに格別おいしかったようです。

仁藤春耕翁の

頌徳碑を建立

明治末、東海道から須走の間に、110基の「道しるべ」を建て、道しるべの恩人といわれた仁藤春耕翁の頌徳碑が吉永公民館前に建てられ、除幕式が11月22日行われました。

この頌徳碑は、市教育委員会および吉永地区歴史保存会が工費約120万円で建立したもので、題字は渡辺市長、撰文は駿河郷土史研究会会長の鈴木富男先生によるものです。

式には渡辺市長、時田教育長をはじめ、吉永地区の関係者約50名が出席し、春耕翁のひ孫にあたる仁藤紫華美さんと宏昭君が除幕を行ないました。





気象 (No.2)

■ 雨

市内に降る雨の量（降雨量）は、年間平均2,100 mmほどですが、市役所と富士山の中腹にある天照神社とでは、年間400mmから500mmほどの差があり、高い場所へ行くほど、多く降っていることがわかります。

富士市では、市内での降水量のようすを知るために須津川上流、丸火自然公園、天照神社など、多くの場所へ雨量計を設置し観測をしています。

気象台では、1時間に20mm、6時間で60mmの雨が降ると予想されるとき「大雨注意報」を、1時間に40mm 6時間で120 mmの雨が予想されるとき「大雨警報」を出します。

家庭で降雨量を計るときは、コップを使うとよくわかります。例えば、コップに深さ2 cmの雨水がたまったら、そのときの雨量は約20 mmということになります。

コップにたまっただけで2 cmの水でも、広い面積に同じように降った2 cmの水が、低い所に集まってくると、何百、何千、何万倍と、どんどんふえていきます。だから降雨量には、十分注意しなければなりません。



■ 集中豪雨

昭和49年の七夕豪雨のことは、みなさんもよく知っているように、静岡や清水市で集中的に大雨が降りました。そのために山くずれや、地すべりが起きたり、洪水（こうずい）で家が水びたしになりました。

富士市内でも、浮島町にある東小学校で1時間に44 mm、6時間で236 mm、市役所では1時間に40mm、6時間で213 mmを記録し、愛鷹山ろくの東部地区では、道路がくずれたり、堤防がこわされたり、農作物も水につかり大きな被害がでました。

また51年8月9日にも、静岡県は集中豪雨による大きな被害を受けました。

台風13号の影響で、南から吹き込んだ湿った暖かい風が、紀伊半島にぶつかって、温暖前線をつくりました。この温暖前線が、厚い雨雲をともなって、静岡県を横断するような形となり、ところによっては雷を伴った強い雨に見舞われ、静岡気象台は同日正午に「大雨、洪水、雷雨注意報」、同日午後3時には「大雨、洪水警報」を出しました。雨は中、西部山岳地帯から岳南地区へと移り、各地で山崩やガケ崩れ、床上浸水交通しゃ断などの被害が続出しました。

とくに富士市は被害が大きく、総雨量こそ299mm（県沼津林業事務所育種場、海拔297m）と、七夕豪雨（333 mm、建設省富士川下流事務所、愛鷹山麓では400 mm近いと推測）より少なかったが、1時間に94mm（岩本山午後5時～6時）、2時間に168 mm（丸火自然公園・午後5時～7時）と午後5時から7時までの、2時間に集中しています。このため市内の中小河川のほとんどがはんらんし、大きな被害が出ました。とりわけ、赤淵川の被害が大きく、上流から押し流されてきた流木が、橋桁に引っかかって、濁流が橋を乗り越えて、人家に流れ込み、全・半壊した家が多く、住んでいた人達は逃げるのがやっとだったそうです。

（次回は「台風と雲で知る天気」を掲載します。）

第12回小中学校統計図表コンクール入賞者きまる

市では、市内小中学校の児童、生徒を対象に昭和53年度第12回統計図表コンクールの作品を募集していましたが、このほどまとまりました。それによると、応募点数245点（小学校157点、中学校88点）の中から図柄、色彩などきびしい審査の結果、次の作品が入賞しました。

▶ 小学校の部

- 市長賞 山崎さとし（富士見台小1年）
てんきしらべ
- 議長賞 後藤 孝（須津小2年）
セミのぬけがらがある高さ
- 教育長賞 池田千波（吉原小5年）
私の家の到着トラック調べ

▶ 中学校の部

- 市長賞 佐藤慶子（元吉原中2年）
あなたは、もう立派な先輩
- 議長賞 大竹達也（吉原三中2年）
老人、子どもを交通事故から守ろう
- 教育長賞 中川恵美子（富士南中3年）
富士市の交通事故件数

火災シーズン
火の扱いにご注意を

